

環境人材育成のための大学教育プログラム開発・実証委員会開発・実証委員会
全体委員会 議事概要

- 日 時 平成23年9月13日(火) 10:00~10:25
- 場 所 大阪府立大学 A1棟3階 大会議室(西東)
- 出席者 府立大学：奥野・安保・正木・辻田・今井・寺迫・高橋・竹内
小崎・山本・高見沢・今木
関係行政機関等：吉田(敏)・吉田(充)・西山・荒木・辻尾・中村・木村・飛田
加藤
プログラム開発・実証コア教員：大塚・津戸・北宅・杉山・横山・森岡・竹中
対外機関とのコーディネーター：小林・水谷
事務局：北田・増垣(記) (敬称略)

1. 開会挨拶

奥野(理事長・学長)が議長役となり開会

○環境人材育成の教育プログラムは、他大学では見られない、全学が対象というのが信じられない、という高い評価を受けている。

○プログラムを開発し、実施段階に入っているが、詳細の検討はこの後の小委員会で行ってもらうこととし、基本的な部分をこの全体委員会で検討する。

2. 開設科目の状況と予定

大塚(工学研究科教授/エコサイエンス研究所長)から環境人材育成教育プログラムの前期の進捗状況の説明と後期に向けた準備状況を説明。

(1)学部(副専攻「環境学」)

◇「環境・生命・倫理」の受講生は155名で前年比-1名、全学部から受講。

◇「環境活動演習」受講生11名で、内分けは工学部3名、生命環境科学部2名、理学部1名、人間社会学部4名が履修している。

4月に開講以来、環境活動の必要性を学び、テーマごとの4チームに分かれて活動を実施中。11月19日(土)には大学院とともに合同発表会を行う。

(2)大学院(「国際環境活動プログラム」)

◇「国際環境学特論」の受講生は26名で前年比+12名と大幅に増えた。内分けは工学研究科22名、生命環境科学研究科4名である。

「キリスト教と環境問題」「持続可能な開発への国連の取組み」の講義に加え、昨年と同様にJICA(4コマ)、関西電力(3コマ)、大阪府環境農林水産部(2コマ)に講義を行って頂いた。

◇「国際環境活動特別演習」の受講生は、11名で工学研究科10名、生命環境科学研究科1名が3チームに分かれ、8月11日~17日には、「ハロン湾におけるマングローブ植林」チームが渡越した。今年度は、堺市立堺高校から教員1名、高校生5名も参加し、13日にJICA草の根事業とタイアップしてベトナム住民らも含め総勢76名とともに植林活動を行った。「ハロン湾の水上小学校における環境教育」「ハロン湾の水質汚濁の現状調査」の2チームは9月19日~25日の渡越に向けて準備中である。

3. 関連した今後の取組み

(1) 堺エコロジー大学との連携

◇府立大学が開講している後期2科目「自然環境学概論」「環境学と社会科学への招待」について、エコロジー大学の学生を受け入れる。申込受付等の事務は、堺市環境局環境総務課が行う。

(2) 内閣府実践キャリア・アップ戦略「カーボンマネジャー事業」

◇内閣府が進める「カーボンマネジャー事業」に府立大学が大学としては唯一採択された。
◇大学ホームページにおいて、8月25日～31日に「レベル2」研修生の募集をしたところ11名の申込みがあった。残念ながら応募資格に該当しなかった者もあり、相当数の問い合わせがあった。

◇集中講義は9月6日（火）から開始し15日（木）までの5日間で全15コマのプログラムを構築し、現在、講義を行っている最中である。

4. 環境人材育成のための教育プログラム開発マニュアル

本年度が環境省事業の最終年度であり、他大学へ環境人材育成教育プログラムの普及を図るため、マニュアルを作成する。

5. まとめ

奥野（理事長・学長）が次のとおり、総括した。

○3年間の補助事業で、全学を対象としたプログラムを作成したが、本当にできるのか、と思っていた。それが文系の先方も入った中で、できてしまったという印象である。行政や企業の方々も一緒になって議論し、順調に進んでいる。関係者の方々にお礼を申し上げる。

○別物ではあるが、試行的に、内閣府のカーボンマネジャー事業も始めている。この事業は、国の施策の中に位置付けられたもので、環境人材育成教育プログラムに関する情報が省庁に流れていることによる。また、堺エコロジー大学との連携も始まる。これらの資格につなげていけば良い。

○環境省事業は3年で終わる。今後は独自事業として継続していかなければならないが、ベトナムに派遣するとなると経費がかかる。

○本委員会としては、これまでの取り組みを了承するが、引き続きこのあと、小委員会で意見交換、情報交換を図り、議論を深めてほしい。

平成 23 年 9 月 13 日 全体委員会の様子



コア教員